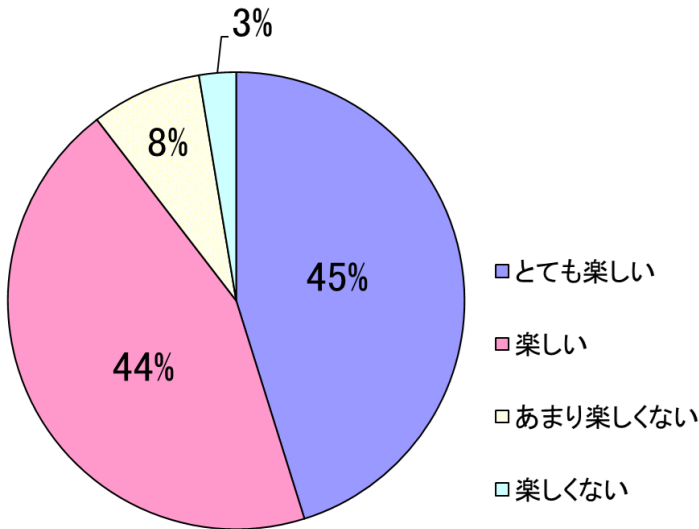


1. 学校生活は楽しいですか。



1. 学校生活は楽しいですか

【令和7年度】

とても楽しい	45%	} 89%	5% down
楽しい	44%		

【令和6年度】

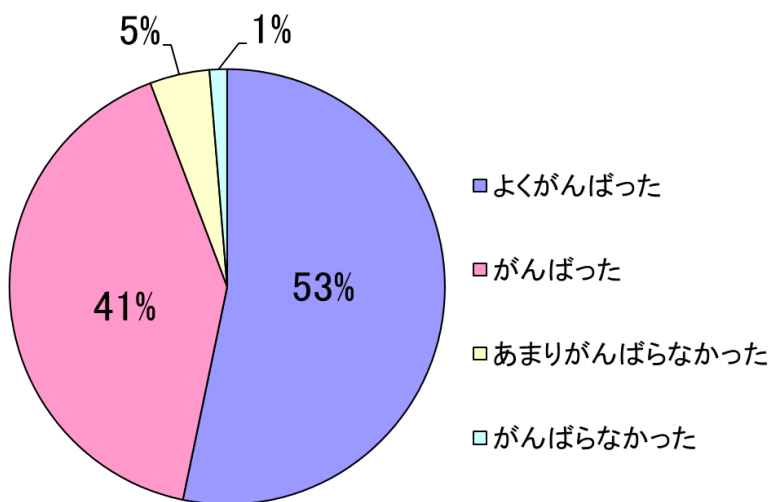
楽しい	54%	} 94%
どちらかと言えば楽しい	40%	

「とても楽しい」「楽しい」の回答合計は89%となり、昨年度の94%から5%減少した。減少はしているが、ほぼ9割の児童が「楽しい」と感じていることは、喜ばしいことである。

低学年、特に1年生は後期に入り学校の雰囲気に慣れ、友達が増えたことで「楽しい」と感じる機会が多くなった。2・3年生についても、進級による新たな学びや人間関係の広がり学校生活の充実につながっている。

今後は、児童が安心して通えるよう更なる児童理解と行事の充実を図ると共に、日々の授業改善を通じて学習面でも達成感や楽しさを味わえるよう努めていく。また、一人一人が居場所を実感し、満足度の高い学校生活を送れるよう支援を継続していく。

2. 当番や係の仕事をがんばりましたか。



2. 当番や係の仕事をがんばりましたか

【令和7年度】

よくがんばった	53%	} 94%	2% down
がんばった	41%		

【令和6年度】

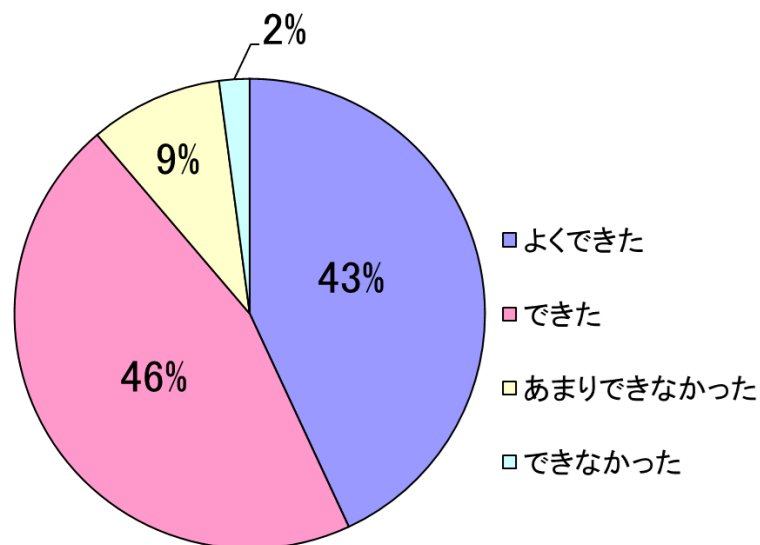
よくがんばった	57%	} 96%
がんばった	39%	

「よくがんばった」「がんばった」と回答した児童の合計は94%で、昨年と比較し2%減少しているものの、依然として高い割合の結果となった。

低学年においては、学級内や学年内における活動が主となるが、比較的小さな集団の中で多くの児童が自分の役割を果たすことができたと感じていることは、高学年に大いにつながることである。低学年で培った意欲や責任感、達成感などは、高学年になり学校全体に関わる役割を担うようになった時に、確実に役に立つため、低学年時にこのような経験を積むことはとても重要なことである。

今後も、各学級、学年における特別活動を創意工夫し、児童が意欲的に取り組むことができるように支援していく。

3. 自分の健康に気を付けて過ごすことができましたか。



3. 自分の健康に気を付けて過ごすことができましたか

【令和7年度】

よくできた	43%	89%	↓
できた	46%		
			2% down

【令和6年度】

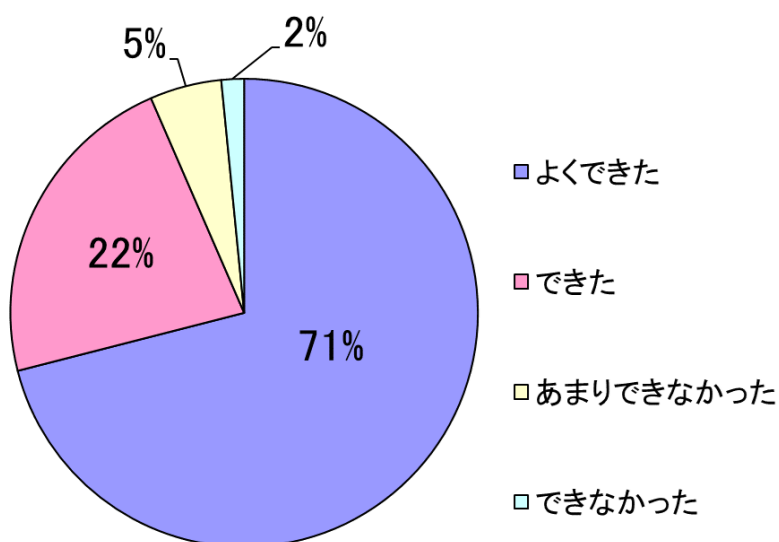
よくできた	49%	91%	↑
できた	42%		

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は89%で、昨年度より2%減少したものの、約9割の児童が自分の健康に気を付けて過ごしていることが分かった。

今年度は、インフルエンザなどの感染症が流行し、学級閉鎖になる学年や欠席する児童が多く見られた。それを踏まえて、委員会活動を通して、手洗いの励行や咳・くしゃみをする時のエチケットなどを呼びかけてきた。

インフルエンザなどの感染症だけでなく、あらゆる病気から自分を守る必要があるため、今後も養護教諭や児童支援チームを中心に、健康に配慮した生活を送ることができるように指導を続けていく。

4. 体育の授業や休み時間には、楽しくたくさん体を動かすことができましたか。



4. 体育の授業や休み時間には、楽しくたくさん体を動かすことができましたか

【令和7年度】

よくできた	71%	93%	↑
できた	22%		
			3% up

【令和6年度】

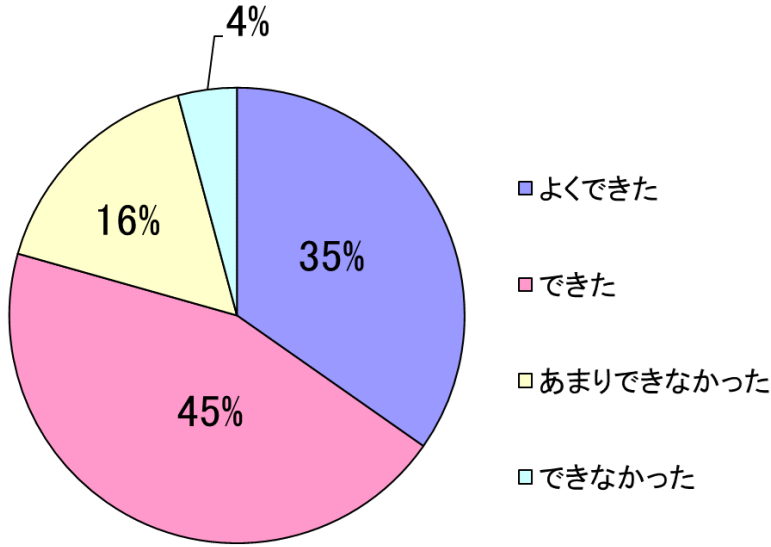
よくできた	66%	90%	↑
できた	24%		

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は93%で、昨年度より3%増加し、9割以上の児童が「体を動かすことができた」と感じている。

中休みの様子を見ると、校庭を使用できる時にはとても多くの児童が楽しそうに運動遊びをしている姿が見られる。また、体育の授業でも、思い切り体を動かして楽しんでいる様子が見られる。

今年度から朝の校庭開放が全学年で実施され、登校後に体を動かす児童の姿も見られるようになった。児童が運動する機会がさらに確保することができたのではないかと考えている。また、中休みの校庭使用についても、3学年ずつ隔日で使用しているところを改善する余地もある。さらに、体育の授業においては、児童がより充実した運動を行い、運動に親しむことができるように、授業改善を図っていく。

5. いろいろな人にあいさつをすることができましたか。



5. いろいろな人にあいさつをすることができましたか

【令和7年度】

よくできた 35%
できた 45% } 80%

【令和6年度】

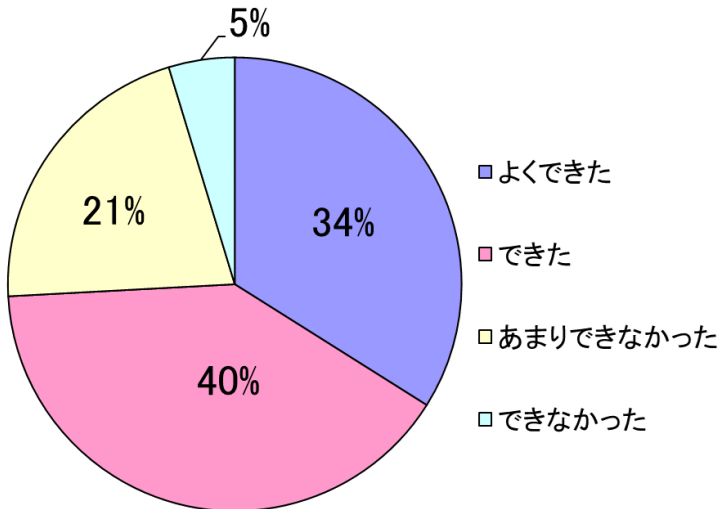
よくできた 35%
できた 47% } 82%

2% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は80%で、昨年度より2%減少した。割合となった。

今年度は、有志が集まって、職員室前に立ち「あいさつ運動」が実施された。TV放送でも呼びかけ、あいさつをすると自分も相手も気持ちよくなることを児童が実感していた。あいさつを自然にかかわる児童の姿を大切にしたい考えから、有志によるあいさつ運動は一定期間に限られていた。そのため、子どもたちが意識して行う機会が少なかったことが減少した要因だと考えられる。あいさつをもっと大切にしようとして朝会で話したり、道徳の授業であいさつの必要性を伝えたりすることで、みんなであいさつをしていこうと発信している。あいさつは、人と人の心がつながる言葉であることを今後も伝えていきたい。大人も率先してあいさつをする姿を大事にしていく。

6. 困った時は、先生や友達に話すことができましたか。



6. 困った時は、先生や友達に話すことができましたか

【令和7年度】

よくできた 34%
できた 40% } 74%

【令和6年度】

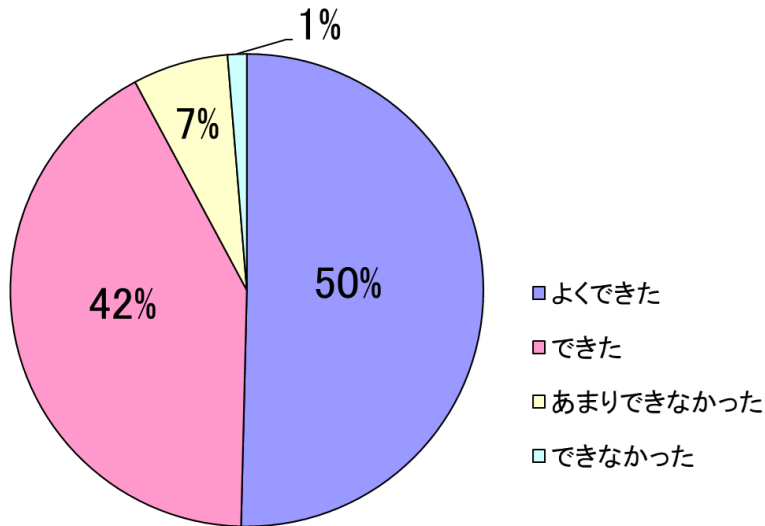
よくできた 34%
できた 42% } 76%

2% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は74%で、昨年度と比べ2%減少した。

低学年時は、困ったことがあった時には何でも話す児童が比較的多いが、自分の中に留めてしまう児童もいないわけではない。そのような児童が教職員や友達に悩みを打ち明けられることができるようにするためには、まず教職員が児童の変化に気付くことが重要である。日頃から児童の表情を注視し、話しかけることで、ちょっとした変化にも気付くことができる。また、教職員がそのような接し方をすることで、児童が「先生に伝えたい」「先生なら助けてくれる」という思いになることを期待したい。さらに、担任は児童の悩みを発見した時に、学年担任や支援教育コーディネーター、管理職にも報告し、学校全体で解決に向けて取り組むことが重要である。そうすることで、児童がもし悩みを抱いても、「先生に相談すれば解決できる」という意識をもつことを期待したい。今後も、コーディネーターや児童支援チームを中心に、児童が相談しやすい環境づくりに努めていく。

7. 学校やクラスの約束を守ることができましたか。



7. 学校やクラスの約束を守ることができましたか

【令和7年度】

よくできた 50%
できた 42% } 92%

【令和6年度】

よくできた 49%
できた 43% } 92%

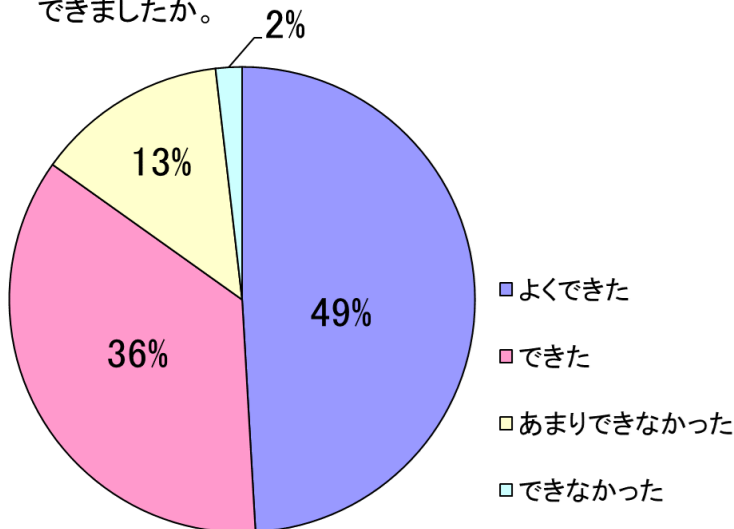
stay

「よくできた」「できた」と感じている子どもが92%と前年度と同じ割合になった。中でも「よくできた」と答えた子どもが増えており、約束をしっかり守ろうとする意識が高まっている。

このことから、学校生活における基本的なきまりや約束は、全体として安定して身につけてきていると考えられる。一方で、まだ十分にできていると感じられていない子どももいるため、引き続き一人ひとりに応じた支援を大切にしていく。家庭とも連携しながら、安心して学校生活を送ることができるように努めていく。

今後も約束を守ることの大切さについて子どもたちと一緒に考える機会を作り、日々の学校生活の中で主体的に行動できるように支援していく。

8. 困っている友達がいたら、助けてあげることができましたか。



8. 困っている友達がいたら、助けてあげることができましたか

【令和7年度】

よくできた 49%
できた 36% } 85%

【令和6年度】

よくできる 54%
できる 35% } 89%

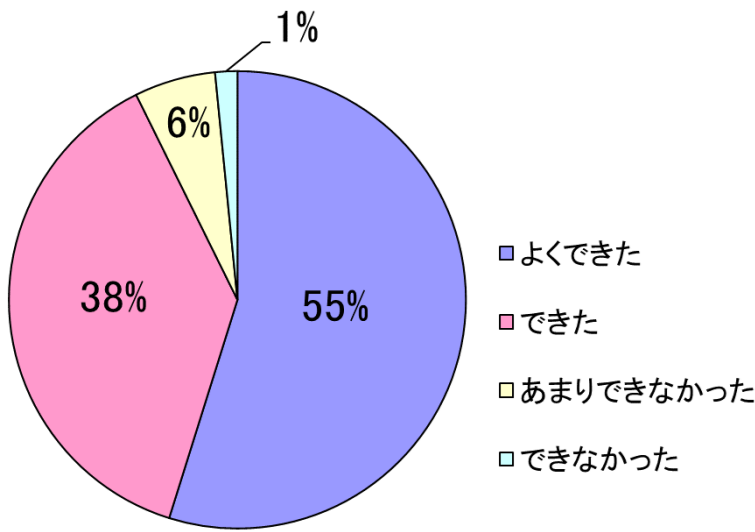
4% down

「よくできる」「できる」と回答した児童の合計は85%で、昨年度と比べ4%低下した。

「助けてあげる」という形について、それが直接何かをしてあげることだけでなく、「大人に伝える」という行為も友達を助けることになるということを、低学年時に指導する必要がある。友達の変化に気付くだけでも、それは立派な「助ける」であることを伝えていきたい。

今後も児童支援チームを中心に、助け合うこと、協力することの大切さを月間目標等で取り上げていくと共に、道徳科の学習や日々の学校生活の中でも児童自身が気付くことができるような指導の工夫に努めていく。

9. 授業では、あきらめずに最後までがんばることができましたか。



9. 授業では、あきらめずに最後までがんばることができましたか

【令和7年度】

よくできた	55%	} 93%	← 4% up
できた	38%		

【令和6年度】

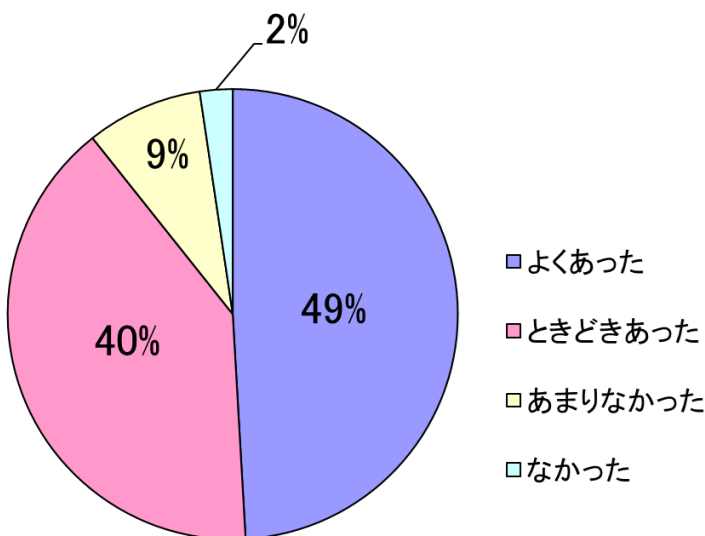
よくできた	55%	} 89%
できた	34%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は93%で、昨年度とよりも4%上昇した。

課題解決学習は、まず児童が「なぜだろう」と疑問を抱いたり、「こうしてみたい」という思いをもったりすることから始まる。特に低学年においては、このような思いをもちやすい傾向にある。途中で飽きることなく何度もやってみることでその思いが実現されると、それが次への意欲となる。

このような学習の流れをより充実させるために、授業力向上チームを中心に日々の授業改善を図る。児童が課題に楽しみながら取り組み、最後まで追求することができるような教育計画を進めていく。

10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか。



10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか

【令和7年度】

よくあった	49%	} 89%	← 3% down
時々あった	40%		

【令和6年度】

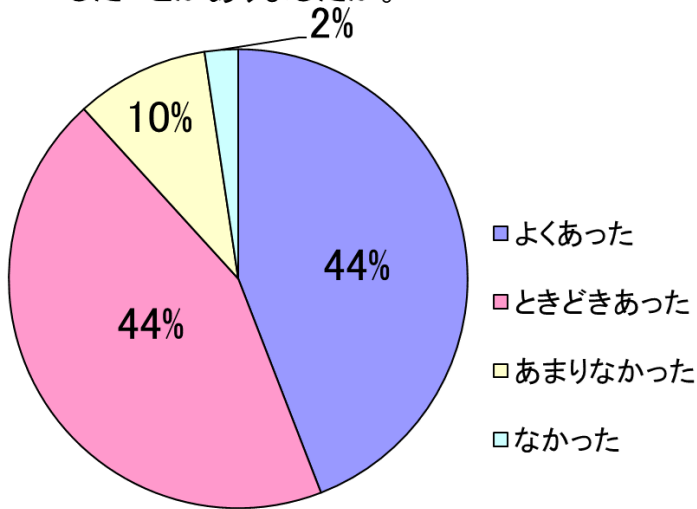
よくあった	52%	} 92%
時々あった	40%	

「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は89%で、昨年度より3%減少した。

前項と同じく、児童が根気よく課題に取り組んだ末に「わかった」「できた」という達成感や満足感を味わうことができるように、さらなる授業改善を図っていく必要がある。そのためにはまず、児童が課題をもつことが重要で、その課題に対してどのような学習過程を経ていくかを、教師は日頃の授業の中で常に考えていかなければならない。

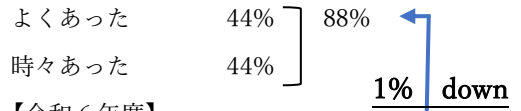
児童の「わかった」「できた」を引き出すために、今後も授業力向上チームを中心に授業改善を進めていく。

11. 友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことがありましたか。

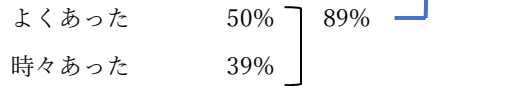


11. 友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことがありましたか

【令和7年度】



【令和6年度】

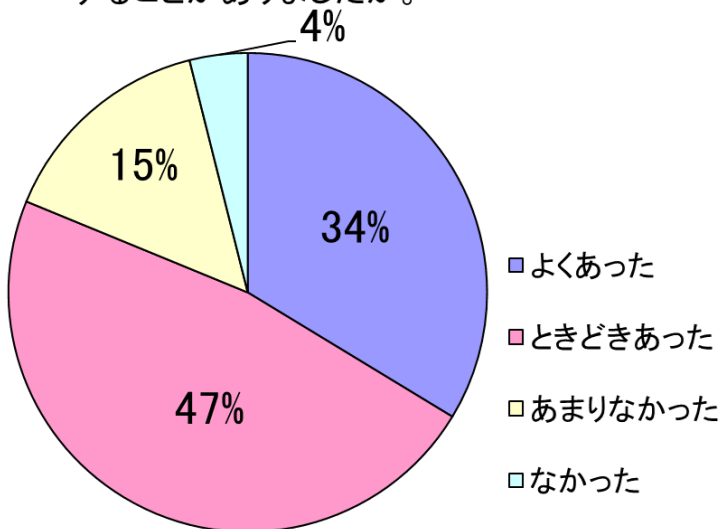


「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は88%で、昨年度同様9割を切る結果となった。

友達のよいところやがんばりに対して、前向きな言葉を素直に言えることは、低学年の間に自然とできるようになってほしいところである。お互いが努力や成長を称え合い、常に前向きな気持ちで学校生活を過ごしてほしいと願っている。

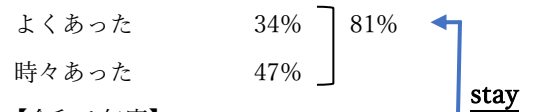
教職員も、児童に対してそのような言葉がけをするように心がけている。児童の些細な変化にも気づき、「いいね」「よくできたね」などの言葉をかけるように努めている。この雰囲気も児童にも広がり、お互いを尊重しながら前向きな言葉が常に行き交う学校づくりを目指していく。

12. 先生や友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと褒められたり、認められたりすることがありましたか。

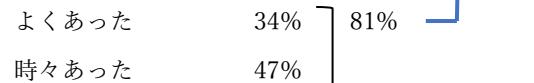


12. 先生や友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などとほめられたり、認められたりすることがありましたか

【令和7年度】



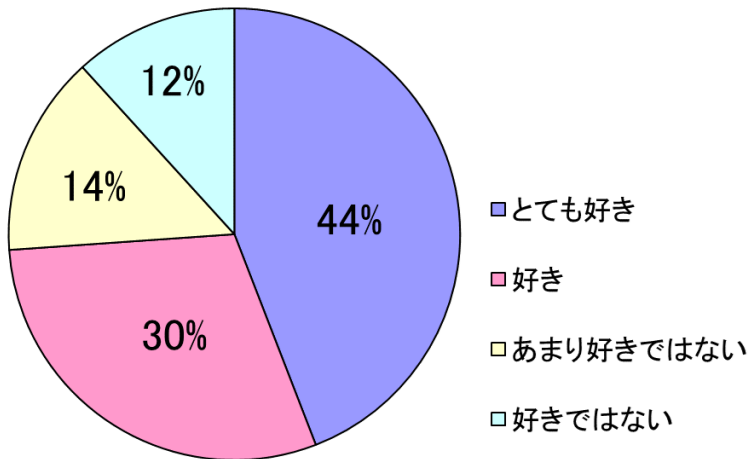
【令和6年度】



「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は81%で、昨年度と同じ割合となった。

教職員はこれまでも児童に対して前向きな言葉がけをするように心がけている。それが児童相互に広がっていくことを期待したいが、それに加えて、児童間でそのような言葉をかけている場面を見た際に、教職員がそれを価値付けることも必要であると感じる。他者から認められた経験がある児童は、新しいことに挑戦したいという気持ちをもつことができる。学校教育理念に掲げている「自己肯定感の高い児童の育成」に努めていきたい。

13. あなたは、自分のことが好きですか。



13. あなたは、自分のことが好きですか。

【令和7年度】

とても好き 44% } 74%
好き 30%

【令和6年度】

とても好き 43% } 80%
好き 37%

6% down

「とても好き」「好き」と回答した児童の合計は74%で、昨年度より6%低下した。

「自分のことが好き」というのは、学校教育目標である「自己肯定感」と直接的につながるものである。低学年時にこの思いをもつことはとても重要で、この思いをもち続けることが「自己肯定感」として児童一人一人の中に根付いていくと考えられる。

この思いを高めたりもち続けたりするためには、児童が自分に自信をもつことが必要である。自分がやったことや言ったことが肯定されること。また、児童が自分自身で考えて行動したプロセスを価値付けられることが自信につながる。

児童が自信をもって生活を送ることができるようになるために、児童が「自分がんばっている」「自分はできる」と思えるような学校づくりを目指していく。